



じんもんこん 2017 開催報告

じんもんこんについて

2017年12月9日から10日にかけて、大阪市立大学の杉本キャンパスにおいて「じんもんこん2017」が開催されました。「じんもんこん」とは「人文科学とコンピュータ」の略称であり、人文科学と情報学の学際領域を対象としたシンポジウムです。本会のメディア知能情報領域に属する研究会の1つである人文科学とコンピュータ研究会 (IPJS SIG-CH, CH研究会) が主催となり、毎年12月に開催されています。じんもんこんにおいて報告される主なトピックは人文科学分野へのコンピュータを応用した研究となっています。具体的にはデジタルアーカイブ、保存科学、文化財防災、MLA連携、デジタル博物館、デジタル化文書、ドキュメンテーション、考古学・歴史学・文献学・言語学などの人文系諸学を含むデジタルヒューマニティーズ、人文情報学、時空間情報、視覚化、データマイニング、色彩情報処理、情報技術を用いた教育、Web活用、情報検索、メタデータ、知的財産権・著作権課題などです。

発表形式は口頭発表、ポスター発表、デモ発表という3つの形式があり、いずれの発表形式においても発表者には論文の投稿が必須であり、査読・審査が行われます。したがって、人文科学とコンピュータシンポジウム論文集に掲載されている論文はすべて査読つき論文となります。また、論文は日本語論文だけではなく英語論文も投稿されています。なお、これらの論文は情報学広場にて公開されています。

じんもんこん 2017 におけるトピックの傾向

じんもんこん2017の参加者は112名であり、例年100名以上が参加しています。また、先にふれたように本会議は12月9日と10日の2日間にわたって行われ、39件の研究が発表されました。研究発表の内訳は口頭発表19件、ポスター発表18件、デモ発表2件でした。発表件数もここ数年は40件前後で推移しており、例年通りの件数でした。

口頭発表

口頭発表のセッションでは「時空間情報」「文字・テキスト」「歴史資料」「美術」「文学」「舞踊」「情報基盤」「博物館」という8つのセッションが行われました。一見しても明らかなように、研究のトピックスは非常に多岐にわたっています。これらの8つの研究テーマは、過去に開催されたシンポジウムでのセッション名に変化はあれど、従来からじんもんこんにおいて議論されてきたテーマであり、年々議論が深められてきたといえます。また、筆者が座長を務めた「文学」のセッションでは木村美紀氏 (明治大学) の「Random Forests を用いた男装作家 Alice Bradley Sheldon の計量文体分析」や土村成美氏 (大阪大学) の「トピックモデルによるアガサ・クリスティ作品の計量的分析」という発表がありました。各発表タイトルにもあるように、分析対象は文学作品ですが、分析手法はランダムフォレストやトピックモデルといった近年の計量的な手法が用いられています。この傾向は「文学」のセッションだけではなくほかのセッションでも同様であり、人文科学領域の研究対象に統計学や情報学の手法が用いられる研究発表が多いというのがじんもんこんの特徴であるといえます。

ポスター・デモ発表

じんもんこんでは研究を促進する上で、発表者と参加者の対話が重要であると考えており、ポスター発表やデモ発表に力を入れています。その結果、近年のじんもんこんでは、表-1に示したように2015年度頃からポスター発表の件数が増加傾向にあり、じんもんこん2017ではじんもんこん2010のころに比べおよそ2倍の発表件数となっています。じんもんこん2017ではポスター発表の増加に伴い、12月9日および10日の両日ともそれぞれ90分間のポスターセッションが行われ、活発な議論が交わされました。ポスターセッションには萌芽的な研究も多く、発表者の研究が次の展開へと続くような議論や討論が行われました。

表-1 ポスター発表件数の推移

年度	ポスター発表件数
2010年度	7
2011年度	10
2012年度	7
2013年度	10
2014年度	9
2015年度	12
2016年度	16
2017年度	18

基調講演

例年、じんもんこんでは基調講演があり、じんもんこん 2017 では京都大学防災研究所の加納靖之氏によって『みんなで翻刻』これまでとこれから」というタイトルの講演が行われました。加納靖之氏は古地震の研究者であり、基調講演では地震に関する史料のデータベース化について発表されました。古文書はくずし字で書かれており、翻刻という一字ずつ現代文字に活字化する作業が必要となります。そこで、研究者および市民参加型の「みんなで翻刻【地震史料】」という Web アプリを用いた翻刻について重点的に発表されました。この Web アプリへの登録者はおよそ 4,000 人にも達し、その 1 割が解読へも参加されたとのことでした。

加納靖之氏が講演された研究は異分野の研究者、さらには市民が共同する研究であり、まさにじんもんこんによってつけの研究であるといえます。このようなさまざまな背景を有する人々が集まる研究では気づきを共有する場が必要であり、ゆるくつながることが重要であると論じられておりました。文理融合型の学際研究の新たな可能性、そして道筋を示されたと思います。

歴博企画セッション

じんもんこん 2017 では共催となっている国立歴史民俗博物館による企画セッションが 2 日目の午前に開催されました。この企画セッションのテーマは「歴史研究と人文研究のためのツールを学ぶ」です。歴史研究や人文研究を行う上で、比較的容易に使用できるツールがたくさんあります。そこで、この企画セッションでは歴史研究や人文研究のためのツールを学ぶチュートリアルセッションが行われました。企画セッションでは、中村覚氏（東京大学）によるデジタルアーカイブ管理ツールである「Omeka」のチュートリアル、関野樹氏（総合地球環境学研究所）による時間情報システム「HuTime」を用いた暦の変換についてのチュートリアル、末代誠仁氏（桜美林大学）によるくずし字などの読めない文字を推定する「MOJIZO」のチュートリアルが行われました。このほかにも「みんなで翻刻」「くずし字アプリ」「KH Coder」「IIF Curation Viewer」「異体字セレクトアセレクトア」という 5 つのツールが簡単に紹介されました。「みんなで翻刻」は基調講演においても取り上げられており、注目すべき Web アプリであるといえます。

このようなツールの開発に加え、使用実績を増やすことで歴史研究および人文研究の成果へと繋がり、今後の異分野連携への基盤が構築されると考えられます。

受賞

じんもんこんではベストポスター賞、学生奨励賞、最

優秀論文賞の 3 つの賞があり、それぞれ審査員の投票によって決定されます。受賞者は以下の通りです。

• じんもんこん 2017 ベストポスター賞

「歌ことば『橘』『梅』『桜』における関連対の抽出」
ホドシチェク ボル（大阪大学）、山元啓史（東京工業大学）

• じんもんこん 2017 学生奨励賞

「日本舞踊における『腰』の技法分析—モーションキャプチャを用いて—」
宇津木安来（東京藝術大学）、露木雅彌（東京藝術大学）、高岡英夫（運動科学総合研究所）

「系図からのデータ自動取得の試み」

永井謙也（和歌山大学）、村川猛彦（和歌山大学）、大澤留次郎（凸版印刷）、宇都宮啓吾（大阪大谷大学）

• じんもんこん 2017 最優秀論文賞

「地方小集落の『集落アーカイブ』の課題と実践的取り組みについて」

藤本 悠（奈良大学）

じんもんこんでは、ベストポスター賞はポスター発表およびデモ発表が対象となりますが、学生奨励賞と最優秀論文賞は発表形式に関係なく賞の対象となります。なお、学生奨励賞は筆頭著者が学生の研究発表に限られます。上掲のように、じんもんこん 2017 ではベストポスター賞が 1 件、最優秀論文賞が 1 件選出されましたが、学生奨励賞は 2 件選出されました。じんもんこん 2017 での学生奨励賞は口頭発表から 1 件、ポスター発表から 1 件選出されています。

例年は、ベストポスター賞および学生奨励賞の発表は懇親会で行われることが多かったのですが、ポスターセッションが 2 日間にわたったこともあり、じんもんこん 2017 ではクロージングにおいて表彰式が行われました。また、最優秀論文賞については、2018 年 1 月 27 日および 28 日に函館コミュニティプラザ G スクエアにおいて開催された人文科学とコンピュータ研究会第 116 回研究発表会（CH116）に受賞者の藤本悠氏を招待し、表彰式が行われました。

次回予告

じんもんこん 2018 は 2018 年 12 月 1 日から 2 日までの 2 日間にわたって東京大学弥生キャンパスの地震火山史料連携研究機構において開催されます。また、じんもんこん 2017 では学生の発表はポスター発表が 7 件、口頭発表が 4 件ありました。研究者を目指す大学院生にとっても非常に発表しやすいシンポジウムです。文系、理系の垣根を越えた学際的な研究に興味がある方にはぜひ一度参加していただきたいと思います。

（土山 玄／一橋大学）